

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年  
11月16日  
第107号



## キクニガナ (キク科)

第二圃場で澄んだ空色の花が一輪目をひきます。ハーブとしてのチコリの名のほうが馴染みがありますね。地中海沿岸地方が原産の多年草です。古代ローマ時代より栽培され、欧米では19世紀には重要な作物として栽培されています。日本には江戸時代後期に渡来しましたが、当時はあまり普及しませんでした。新芽を日光に当てず、白く育てることで、本来の苦味を和らぎ、サラダなどに加えて美味しく食べられるようになります。根は独特のほろ苦さと淡い芳香を持ち合わせていることから、乾燥、焙煎して、コーヒーの代用とすることもあり、これは「チコリコーヒー」と呼ばれます。これはナポレオンが1806年にイギリス製品をボイコットする「大陸封鎖令」を発した時、コーヒー豆が極端に不足、フランス植民地からコーヒーの代用品として広まりました。ただ、成分はイヌリンと苦味質で、カフェインは含まれていません。

## マユミ (ニシキギ科)

園内も秋色の紅葉、黄葉、実と色付いてます。色の少ない自然植物区の講義棟側の林ですが、よく見るとピンク色の四角い実がみつかります。この実は割れると中から赤い種子が現れ、そのぶら下がる姿はとても綺麗です。山野に生える落葉低木で、初夏には目立たない緑白色の花をつけます。マユミ(真弓)の名は、材がしなやかで、これで弓を作ったことから。昔は、樹皮から和紙をつくったり、種子、果皮の煎じ液を、頭に寄生するシラミの駆除に使っていました。種子は有毒で、食べると嘔吐、下痢を起こすので、要注意です。日本の漢方医学では使用しませんが、中国では、根が、西南卫矛という名の中薬となり、活血、祛風湿を目的に使用するそうです。

今、こんな花木がたのしめますよ！！